

中野 寛之 議員



一問一答方式

- ① 愛媛大学との地域連携
- ② 観光列車「伊予灘ものがたり」
- ③ スマートフォンの位置情報機能を活用した観光
- ④ 木材、森林と親しむ教育

愛媛大学との地域連携について

問

先月開催された愛媛大学地域協働センター西条の見学会における愛媛大学の説明によると、地域協働センターを南予北部にも今後設置を予定しているということであった。市としては、この地域協働センター

も含めて、愛媛大学との連携について、今後どのように取り組まれる考えか。

答

今後においては、さまざまな連携項目において、愛媛大学との連携を強化し、それらの成果をもとに、さらに取り組みを進めていきたいと考えているところです。

地域協働型センターの開設には、地域の機運の醸成が図られることが重要であると考えており、経済団体や企業、自治会や学校などの地域の皆様ともご相談しながら、開設に必要な条件等について愛媛大学にも伺いし、検討していきたいと考えています。

観光列車「伊予灘ものがたり」について

問

JR四国の観光列車「伊予灘ものがたり」については、運行開始から3年を経過したが、乗車率も9割を超え、非常に好調な業績を示している。その人気の背景には、地元のおもてなし体制が乗客に非常に受けていることが挙げられている。市においては、伊予灘ものがたりを

活用した大洲の観光振興策についてどのように考えているのか。

答

伊予灘ものがたりを観光振興に活用することは、観光誘客において非常に効果的であると考えています。そのため、大洲編の乗客に限定したサービスとして、観光情報の提供や、大洲市での観光を楽しめるプログラムを用意することにより、大洲市での滞在時間の延長や、満足度の向上を図っているところです。今後においても、乗客のニーズを捉えながら、満足度の向上に努めていきたいと考えています。

地元のおもてなし体制が人気の一つとなっている「伊予灘ものがたり」



木材、森林と親しむ教育について

問

木育とは、平成16年に北海道で誕生した新しい言葉である。

本市における子育て支援の一環としても、就学前の乳幼児について国産材と親しめる機会があることが望ましいと考えているが、見解を伺いたい。

答

身近な生活の中に木を取り入れ、子育てに木を活用することは、子供の五感に働きかけ、感情豊かな心の発達を促すとともに、保護者の方にとっても癒やし効果があるものと認識しています。

保育所や幼稚園、児童館、また総合福祉センター内のおもちゃの図書館には、木製のおもちゃを多数配備しています。

また、保育所や児童館などの施設の改築に当たっては、木造もしくは木質化を進めることとしています。今後は、豊かな森林資源の活用について、関係部局と協議を始めてみたいと考えています。